公務員を元気に　国民を幸せに
人事院
National Personnel Authority

総合職試験等からの新規採用職員に対するアンケート

結果の概要

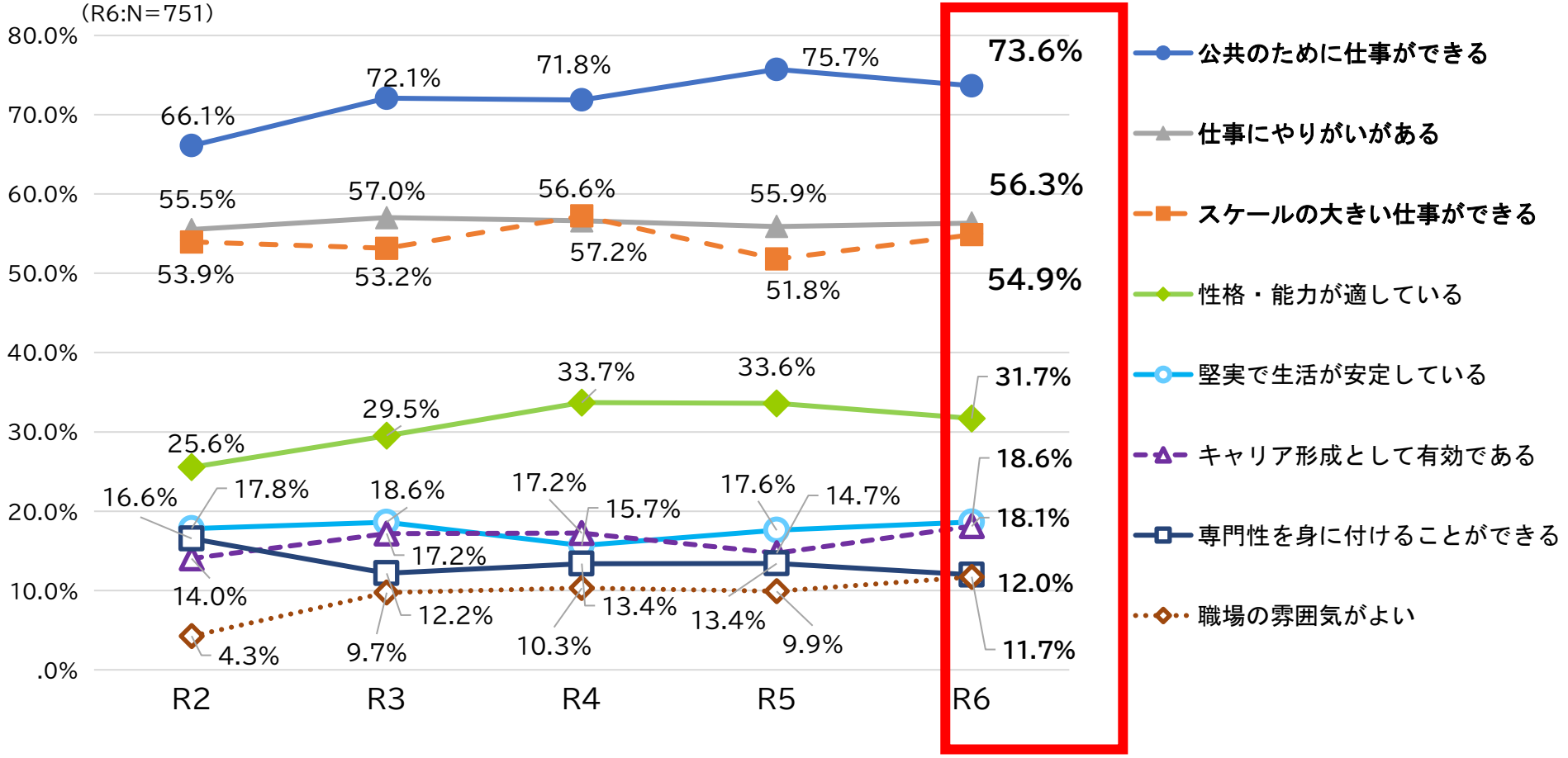
調査対象者　令和6年度初任行政研修を受講した職員　782人
有効回答数　751人（回収率　96.0%）

※1　本アンケートは、採用後3ヶ月程度経過時点で実施したもの。
※2　各問のグラフ中の「N」は、それぞれの問に対する令和6年度の有効回答数。

〔用語の説明〕
・「総合職試験等」とは、国家公務員採用総合職試験及び国家公務員採用総合職試験相当の試験（例：農林水産省獣医系技術職員を採用する試験）等をいう。
・「初任行政研修」とは、平成9年度に創設されたもので、人事院が、主として総合職試験に合格して新規採用された全府省の職員を対象に実施している研修である。

問1　国家公務員になろうとした主な理由（3つ選択）

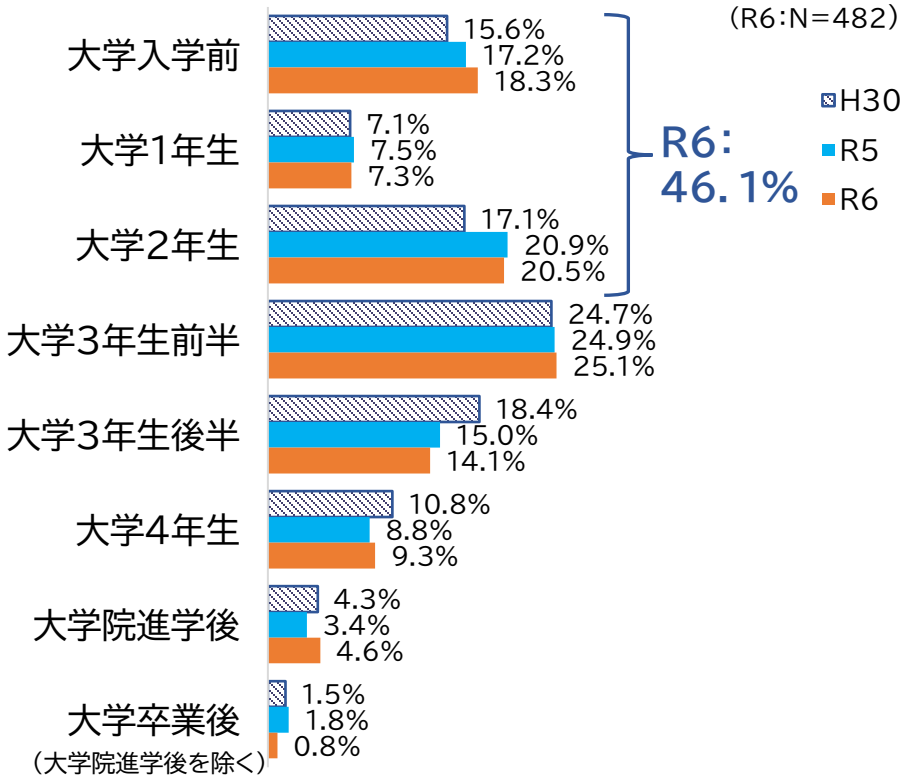
➢「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」「スケールの大きい仕事ができる」が引き続き上位3つを占める



問2　就職先として国家公務員を意識した時期

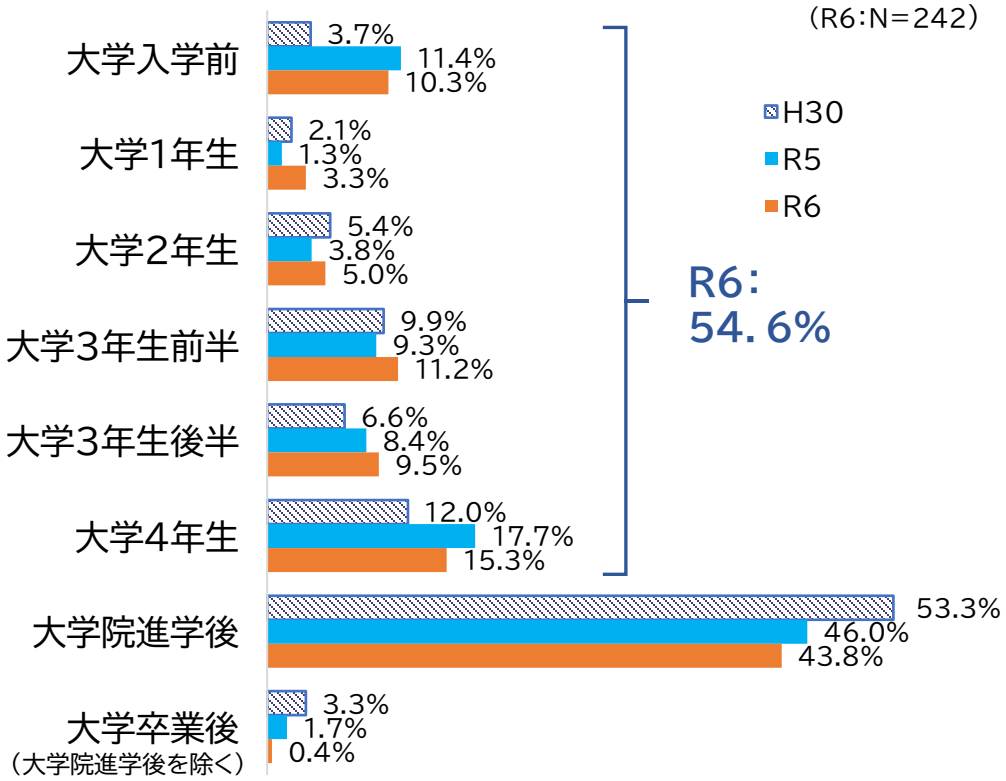
- 総合職試験（大卒程度）では、46.1%の者が大学2年生までに就職先として国家公務員を意識
- 総合職試験（院卒者）では、54.6%の者が大学院進学までに意識

総合職試験（大卒程度）



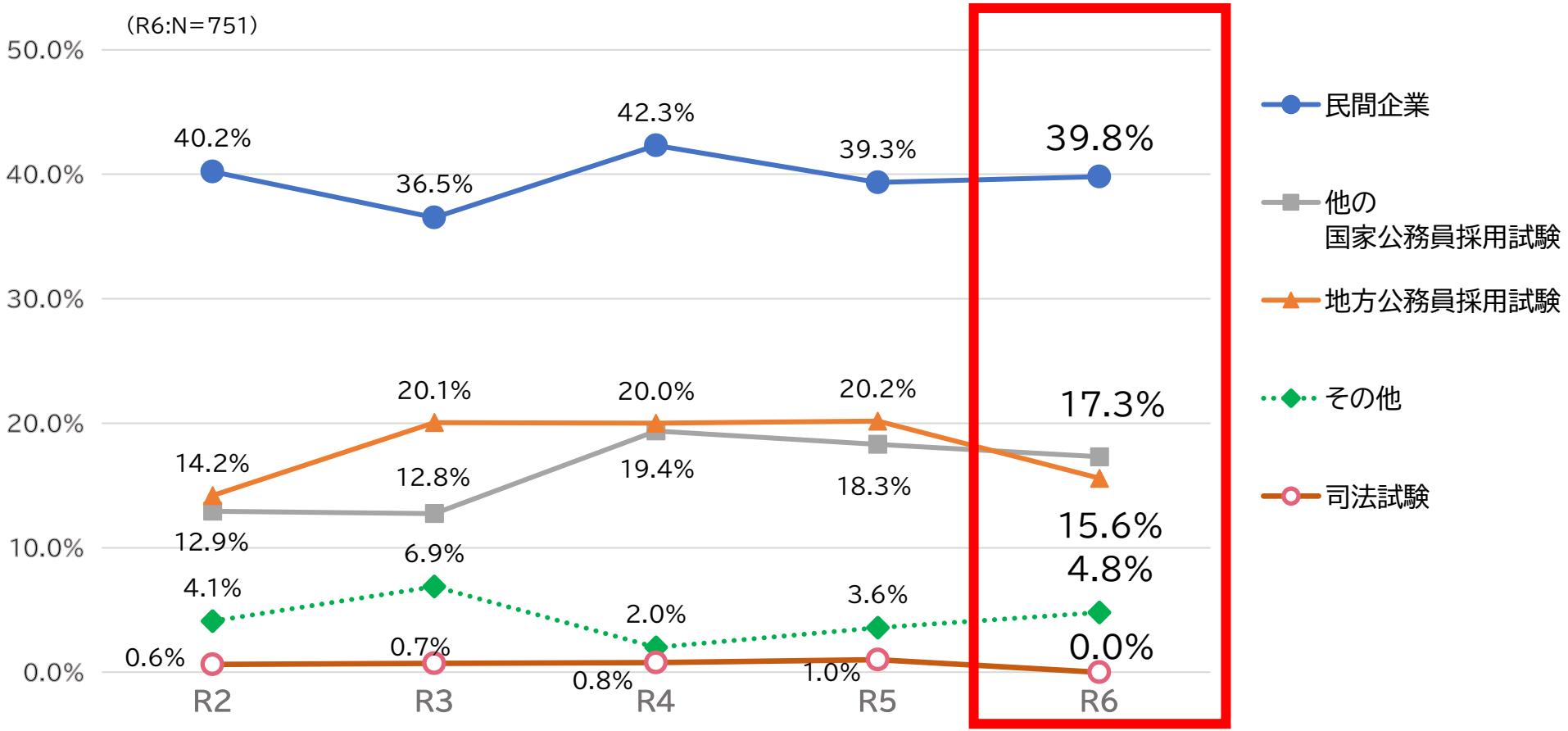
※ R元、R2は当該項目について調査していない

総合職試験（院卒者）



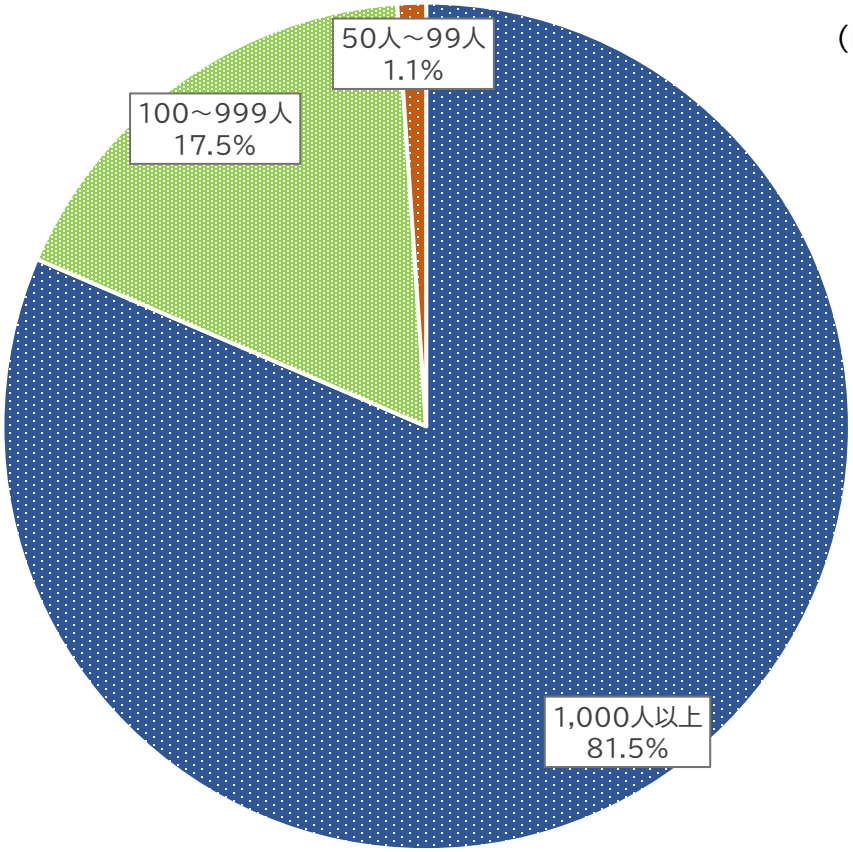
問3　採用された試験以外での合格、内定先（複数回答）

➢ 回答者全体の39. 8%が「民間企業」、17. 3%が「他の国家公務員採用試験」、15. 6%が「地方公務員採用試験」の内定があり、官民を通した就職活動を経て国家公務員に就職



問4 （問3で「民間企業」と回答した方）
内定を受けた民間企業の規模のうち、最も大きいもの

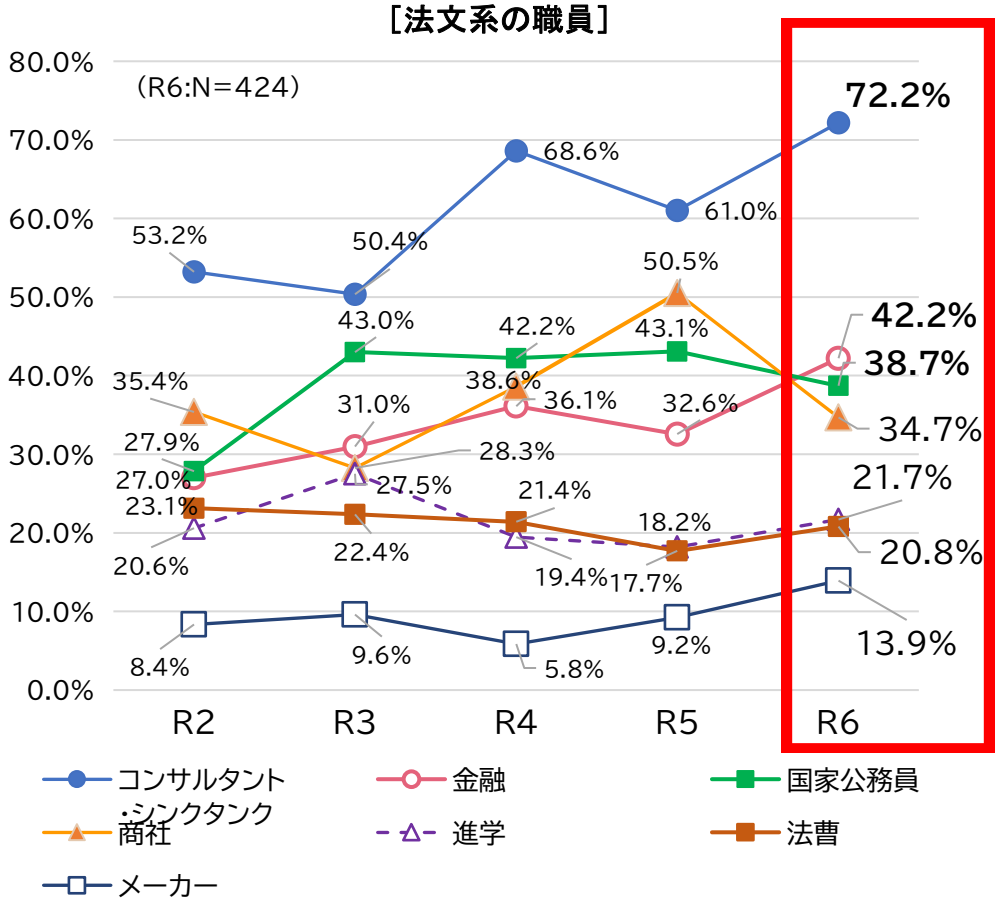
- 民間企業に内定を受けた者の81. 5%が企業規模は 「1,000人以上」と回答
- 企業規模は「1,000人以上」と回答した者の主な内定先企業の業種は、「コンサルタント・シンクタンク」、「メーカー」、「金融」

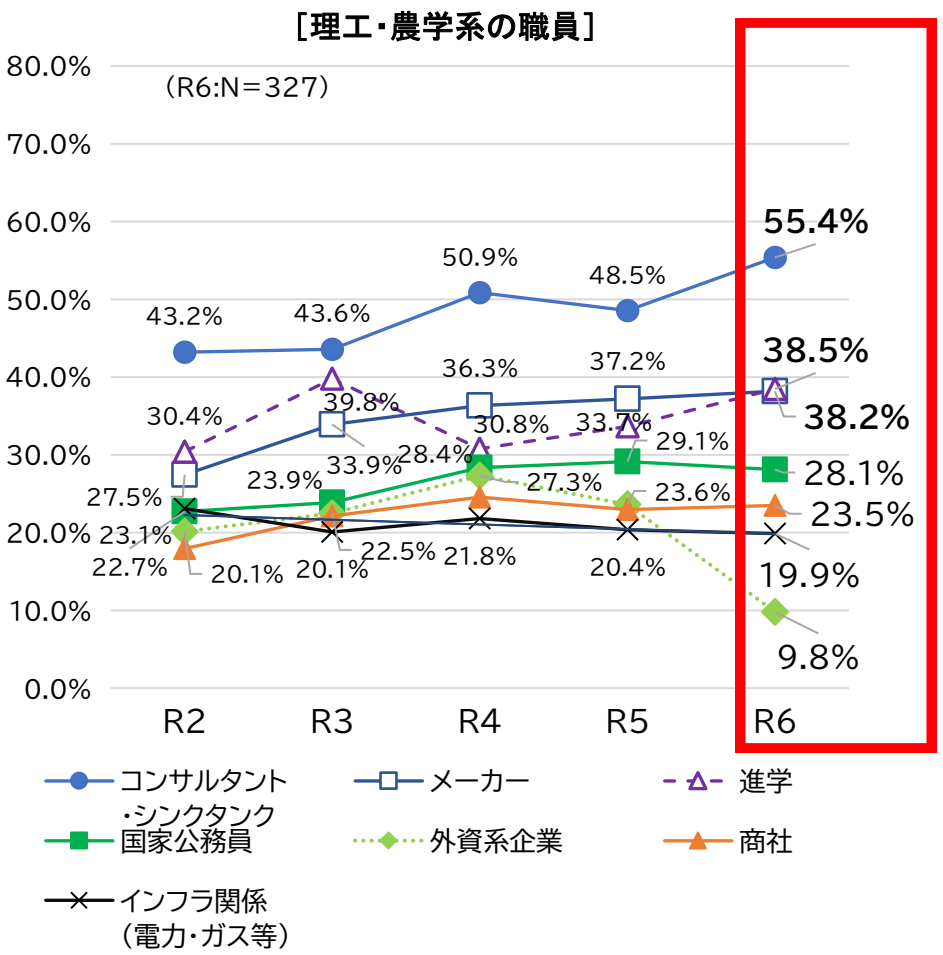


（R6：N＝276）

問5　周りの優秀な学生の就職先（3つ選択）

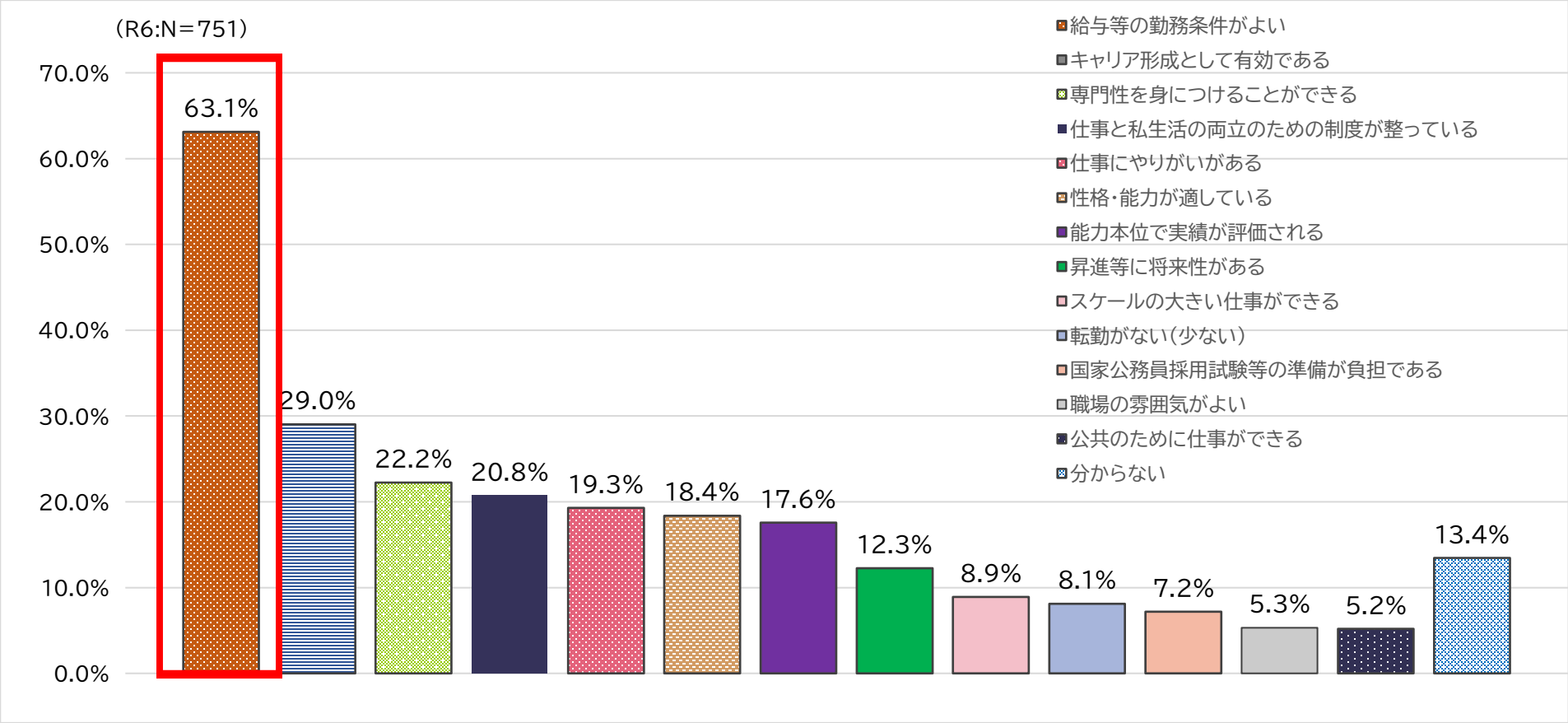
- 法文系の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「金融」「国家公務員」が上位
- 理工系等の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「メーカー」「進学」が上位





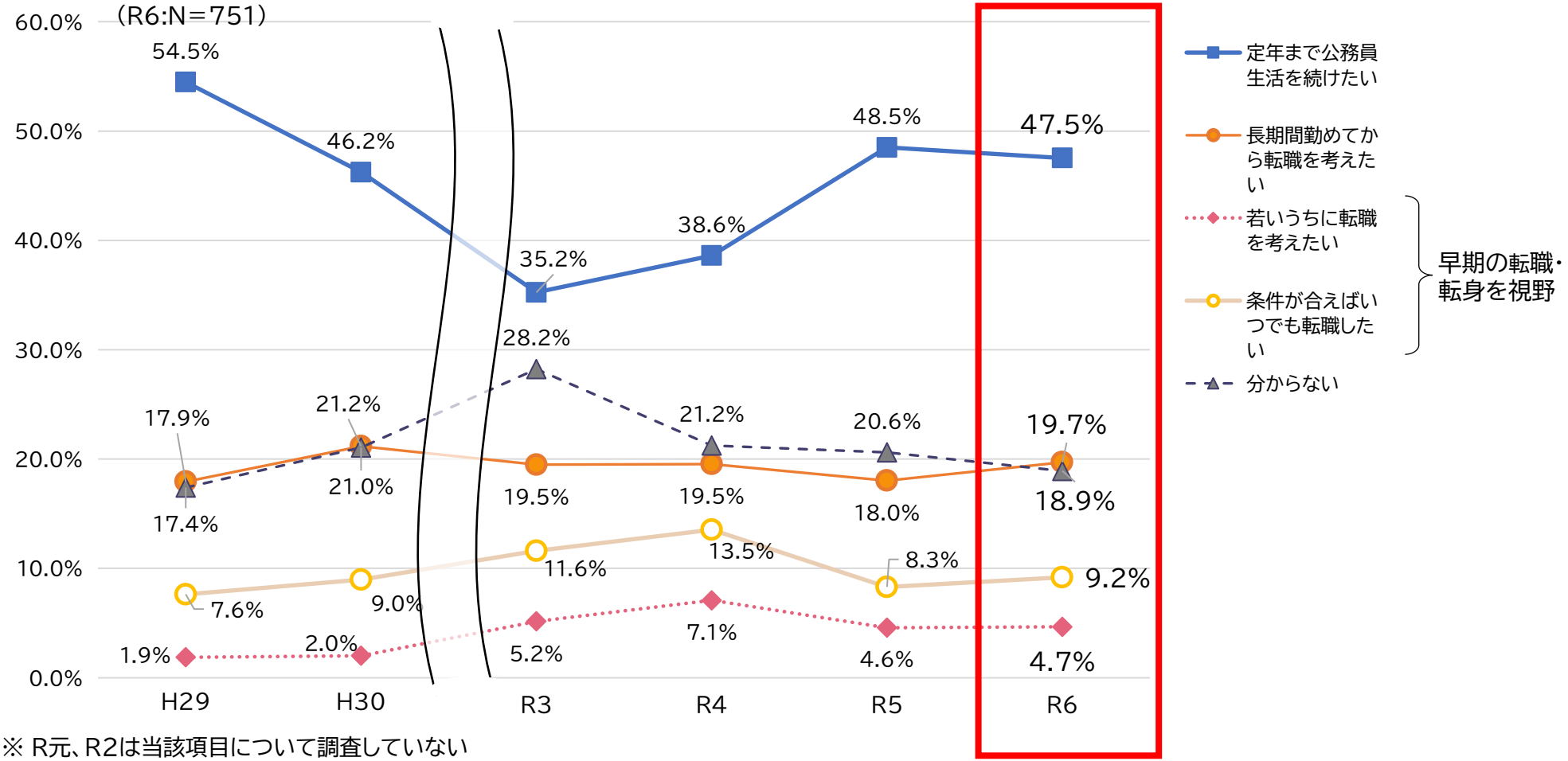
問6　周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手は何ですか（3つ選択）【R6から新設】

➢ 周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手は「給与等の勤務条件がよい」が63.1%で最多



問7　国家公務員としていつまで働きたいか

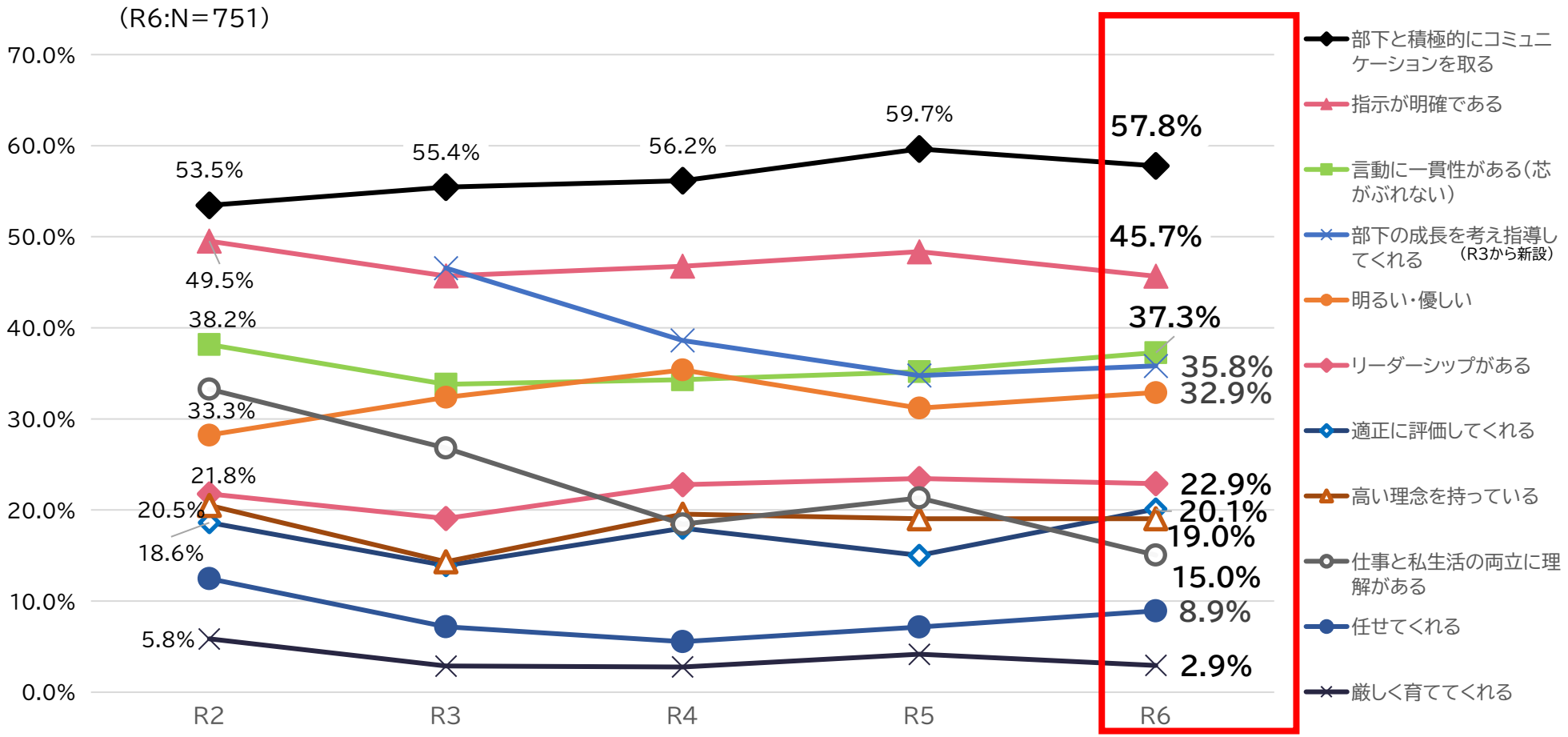
- 定年まで公務員を続けたい者は47.5%
- 早期の転職・転身を視野に入れている者は13.9%



※ R元、R2は当該項目について調査していない

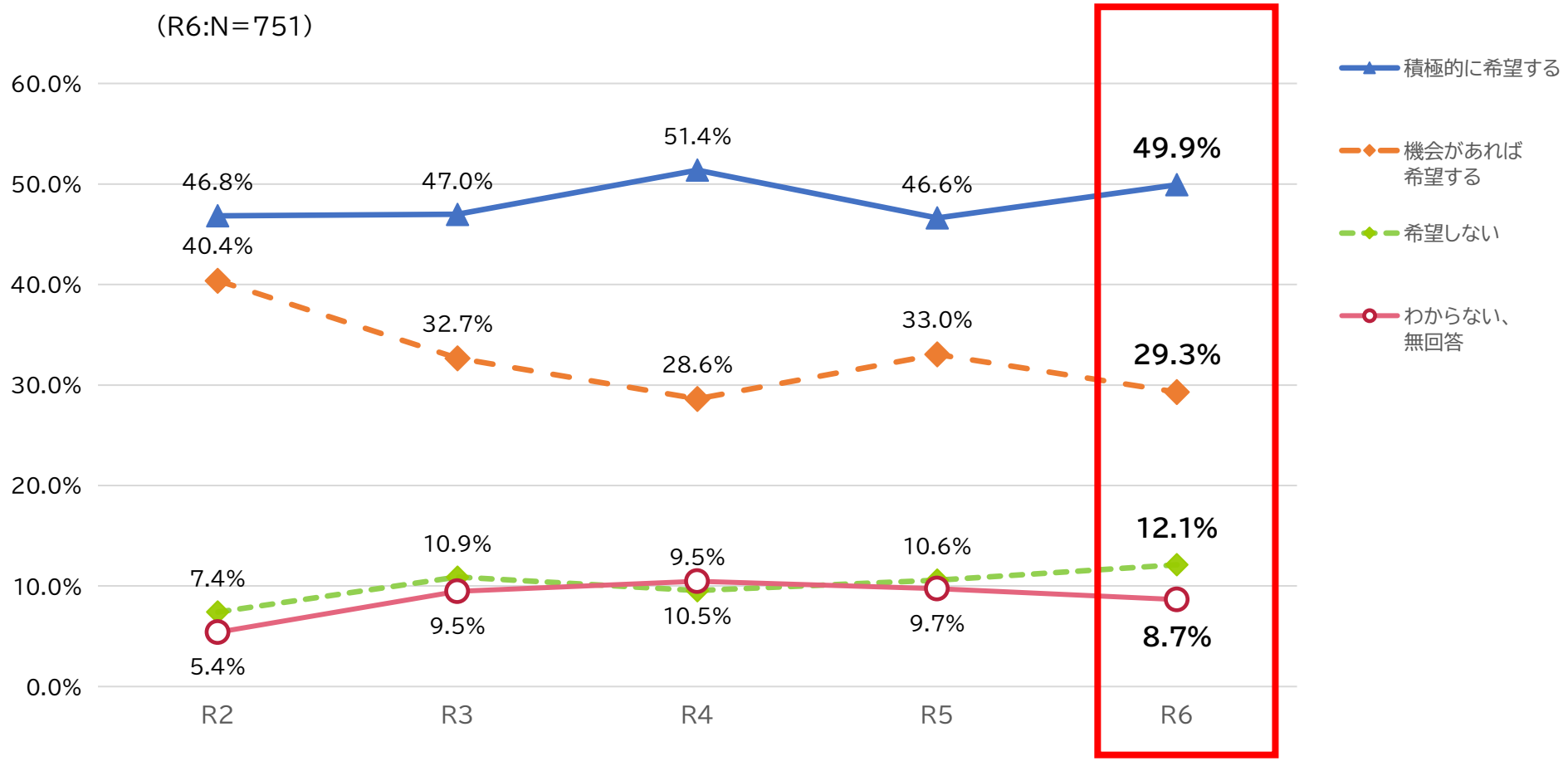
問8　どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいか（3つ選択）

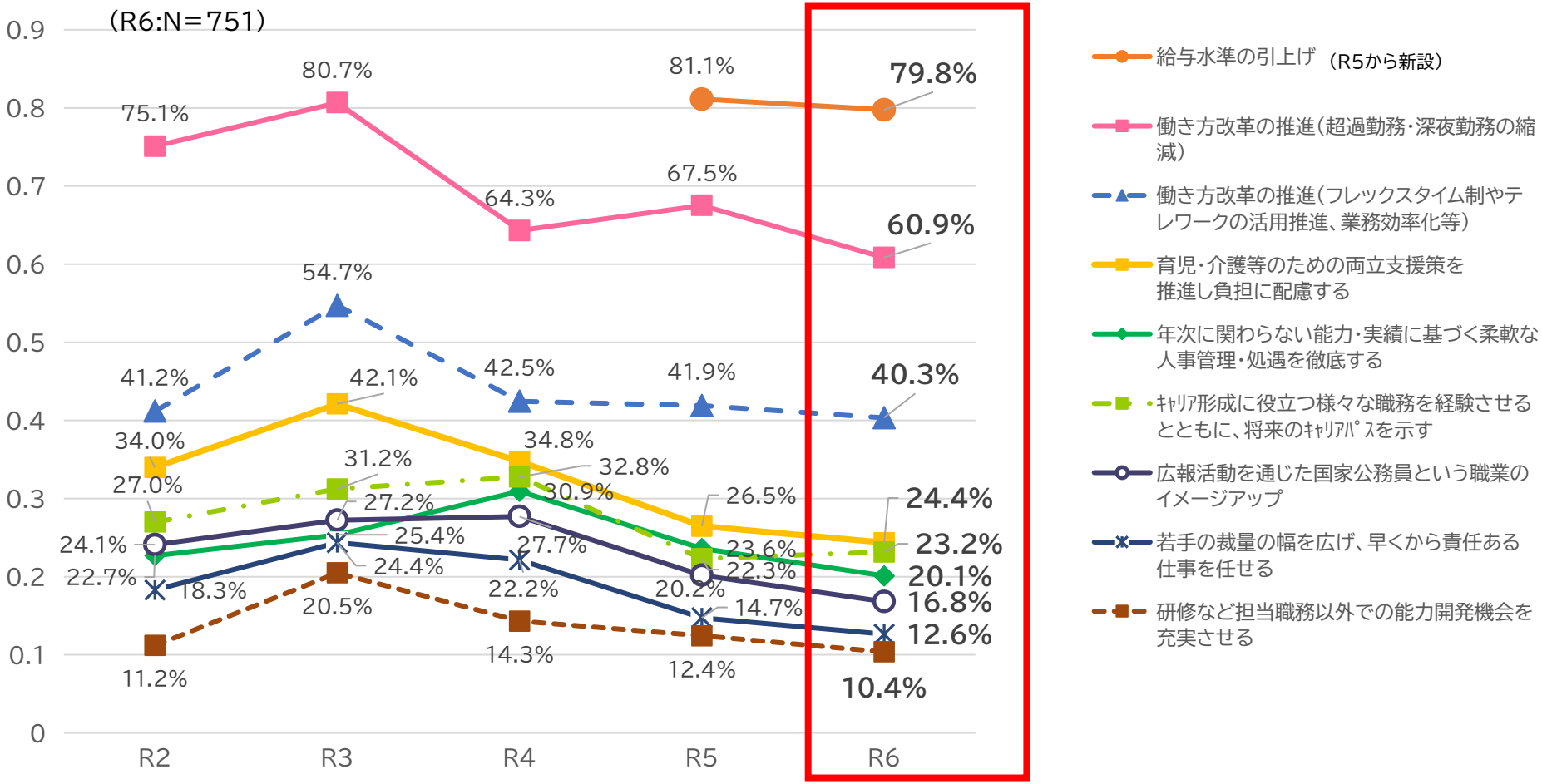
- 「部下と積極的にコミュニケーションを取る」「指示が明確である」の回答割合が高い
- 「厳しく育ててくれる」の回答割合は低い



問9　国際的な経験（留学・海外勤務など）について

- 全体の79．2%が「積極的に希望する」又は「機会があれば希望する」とし、留学や海外勤務を希望すると回答



問10　公務の魅力向上、優秀な人材の獲得のために必要と考えられる取組（複数回答）

- 「給与水準の引上げ」が79．8％で最多
- 働き方改革の推進（超過勤務・深夜勤務の縮減及びフレックスタイム制やテレワークの活用推進等）にも引き続き高い関心